



代表者 **吉寄 響子** 助教

メンバー **森本 将弘** 教授 (病態制御学講座)

本研究により解決される課題

ヒトの炎症性腸疾患の治療標的として好酸球の有用性

技術の内容

ICRに入った突然変異を利用した近交系を確立したことで安定的に好酸球が増加したマウスを得られる。

業績例

1. 重度線維化を伴うアトピー性皮膚炎モデル (Yamadaら, 2024, JVMS)
2. 線維化を伴う慢性腎不全モデル (Yamadaら, 2024, 日本獣医学会発表)
3. TNBS誘導大腸炎モデルにおける大腸炎軽症化の検討 (Kurodaら, 2025, 日本獣医学会 発表 (予定))

技術の独自性・優位性

好酸球増加マウスの作成にIL-5過剰発現を用いていないこと。

特許

【特開2022-139249】
「近交系マウス及び近交系マウスの作製方法」

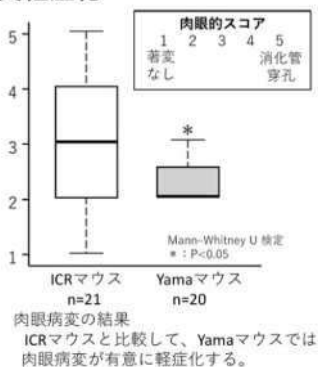
共同研究

医学部眼科学講座

現在得られているデータの概要

- ① 遺伝性好酸球増加マウスを用いた高度線維化を伴うアトピー性皮膚炎モデルの作成
- ② 遺伝性好酸球増加マウスを用いた線維化を示す慢性腎不全モデルの作成

好酸球の大腸炎軽症化



今後の予定

